

重点目標 (めざす姿)		具体的方策	主 担 当	【評価指標】 ＜成果指標＞＜努力指標＞ ＜満足度指標＞	【評価の根拠】 達成度判断基準	取組状況と今後の改善策	評 価	学校関係者 評価者 による意見
1	（教師力を組織的な学校運営高める）	①気づきを大切にし、的確な「報告・連絡・相談」をする。	運営委員会（教頭）	【努力指標】 管理職、校務分掌、学年での「報告・連絡・相談」を密にし、協力して課題解決に対応する。	【教職員アンケート】 ・気づきを大切にし、的確な「報告・連絡・相談」をしている。 A 90％以上 B 80％以上 C 70％以上 D 70％未満	【教88.0】 ・学校経営ビジョンに実現に向け、運営委員会や学年会等、定期的な連絡調整の会を設けて、組織的な体制を構築している。ただし職員構成の事情から、情報交換が難しい現状がある。日々の職員室内でのコミュニケーションやチャット等を活用し、報連相の充実に努めていく。備考：育休（5名）産休（2名）育児のため勤務時間を調整している方（1名）非常勤講師（2名）	B	①より風通しの良い職場環境を作っていくためにも、様々なツールを駆使して、情報共有を行っていく必要がある。 ①多様な事情を認め合える職場環境であれば、自ずと改善していくはずである。 ②元来の定時退校日を設けつつも、個々の事情に合わせて必ず定時退勤する日を月ごとに設定するという方法もある。
		②働き方の見直しを進める。	運営委員会（教頭）	【努力指標】 月2回以上の定時退校を設定したり、業務の平準化を行ったりすることで、時間外勤務時間を短縮する。	【時間外勤務時間調査】 ・時間外勤務時間が月80時間を超えないように勤務している。 A 100％ B 90％以上 C 80％以上 D 70％以上	【4～7月 87.1％】【9～11月 91.3％】 年度当初の時間外勤務時間は多かったものの、5月以降は昨年と比べて減少傾向が見られる。職員の業務改善また勤務時間に関する意識の変化が感じられる。ただし80時間を超える職員はゼロではなく、校長面談により、改善策の検討を進めている。学校全体での業務削減や平準化を進めつつ、職員個人のウェルビーイングの意識も高めて業務改善に努めていく。	B	②残業時間の多い教職員に対しては、業務内容を確認し、改善案について相談するなど、早急に対応していくべきである。 ③折に触れ、達成状況を確認することが必要であると思うが、職員全体ではなく、学年や教科部会等、小さな単位ならば比較的検討する時間が取れるのではないかと考える。
		③生徒の「自己指導能力」を育む。	生徒指導（泉）	【努力指標】 生徒指導の4つの視点を意識した実践を重ね、「自己指導能力」の育成を目指す。	【教職員アンケート】 ・生徒指導の4つの視点を意識し、「自己指導能力」を育むことができた。 A 90％以上 B 80％以上 C 70％以上 D 70％未満	【教76.0％】 7月のアンケートから19％も数値を落とす結果となった。年度当初は校内研修会を行い、具体的な自己指導能力の獲得について検討したが、その後の評価、改善、さらなる目標を立案する機会を設けることができなかった。現在の生徒に応じた課題を話し合い、どのような「自己指導能力」を身に付けていくのかを検討する機会を設けていく。	C	
2	（自ら進んで学ぶ生徒）	① 目標を達成した姿を明確にする。	研究（斉田）	【満足度指標】 既習事項を想起させたり、学習課題を明示したりすることを通じて、生徒が目標を達成した姿を具体的にイメージできるようにする。	【生徒アンケート】 ・課題をつかみ、学習の見通しをもてていたか。 A 90％以上 B 80％以上 C 70％以上 D 70％未満 【教職員アンケート】 ・授業の導入部分で、生徒が目標を達成した姿をイメージできるような手立てを行ったか。 A 90％以上 B 80％以上 C 70％以上 D 70％未満	【教 92.0％ 生 91.9％】 中間評価と比較すると、肯定的な回答の割合は、教師、生徒ともに若干減少している。しかしながら、最も肯定的な回答（「そう思う」）の割合は教員では9.2％、生徒では2.2％増加している。授業の導入場面で、生徒が課題解決の見通しをもっているかということに対しては、量的にも質的にも充実してきている。今後も引き続き、一人一人の生徒が、本時の学びを自分事とらえ、高いモチベーションをもって授業に取り組むことができるよう、授業改善に取り組んでいく。	A	③生徒と教職員の間における肯定的な回答の差と教職員間における回答の二極化が見られるが、「まとめ・振り返り」の方法については、教職員間での共通理解をさらに深め、生徒たちが毎時の目標を達成し、学習内容がより定着するよう取り組んでいくべきである。
		② 課題解決に向けた指導方法・教材等を工夫する。	研究（斉田）	【満足度指標】 課題解決のために必要な視点を明確にすることを通じて、生徒に学びを委ね、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実につなげる。	【生徒アンケート】 ・自分に合った方法や視点から、課題を解決できたか。 A 90％以上 B 80％以上 C 70％以上 D 70％未満 【教職員アンケート】 ・授業の展開部分で、思考や対話の視点を明確にし、生徒にまとまった活動時間や課題解決の方法を委ねることができたか。 A 90％以上 B 80％以上 C 70％以上 D 70％未満	【教 88.0％ 生 92.2％】 肯定的な回答の割合、最も肯定的な回答の割合ともに、教師、生徒のアンケート結果が顕著に改善している。校内研修会やリーディングDX事業を通じて、考える視点の明確化や効果的なICT活用方法について研鑽を深めてきた成果が少しずつ現れてきていると考えられる。今後も、汎用的なソフトウェアやクラウド環境を効果的に活用することにより、一人一人が頭をフル回転させて、目標達成に向かうことができるような授業づくりを全教科で目指していく。	B	③内容の定着を図るためには、こまめな振り返りや復習が必要だと考える。授業時に出席した適応題等を複数回にわたって出題するなど、負担をかけずに定着につなげる工夫ができると考える。 ③生徒と教職員間の回答のズレを解消するためにも、なぜそう思ったかなどの理由を確認してみると良い。
		③ 視点を明確にしてアウトプットさせる。	研究（斉田）	【満足度指標】 生徒の理解度に応じて書き方を選択できるようにすることを通じて、学習課題と整合した適切な形で学びをまとめたり、振り返ったりすることができるようにする。	【生徒アンケート】 ・課題に合う形で、授業の学びをまとめたり、振り返ったりすることができたか。 A 90％以上 B 80％以上 C 70％以上 D 70％未満 【教職員アンケート】 ・授業の終末部分で、生徒が課題に合ったまとめ、振り返りができるよう、キーワードや書き出しを指定するなどの手立てを行うことができたか。 A 90％以上 B 80％以上 C 70％以上 D 70％未満	【教 76.0％ 生 93.6％】 肯定的な回答の割合が教師では8.6％減、生徒ではほぼ横ばいであった。展開部分はICTの効果的な活用で充実させることができていたが、終末でのまとめ、振り返りに関しては、共通理解が不十分である可能性がある。ICTを活用すると、生徒一人一人が主体となって行われる活動の量は増え、盛り上がりのある授業になる傾向はあるものの、学んだ内容が定着しているかという部分に関しては、十分に検証されないまま授業が終わっていくことが少なくない。生徒が目標達成に向けて教師が意図した方向に変容していったかを見取っていくことができるよう、各教科で工夫していく必要がある。	B	否定的な意見は真摯に受け取りつつも、肯定的な意見については取り組みに対する自信にもつながるのではないかと。
3	（明るく素直に振る舞う生徒）	①生徒指導・教育相談を充実する。	生徒指導（泉）	【努力指標】【成果指標】 生徒指導や教育相談を充実させることで、年間の事案件数を減らす。	【生徒指導データ】 ・生徒指導事案（暴力・いじめ等）の発見と解決。 A 100％ B 90％以上 C 80％以上 D 70％以上 【教育相談データ】 ・新たな不登校及び不登校傾向の生徒をつくらない。	【暴力認知件数8件】 【いじめ認知件数9件、うち解消4件 解消確認まで3カ月を要するため】 週1回の管理職と生徒指導担当者間での情報交換と教育相談会を通して、各学年及び個々の生徒の状況について、情報を共有し、今後の対応策や、トラブルを未然に防止するための方策などについて、話し合っている。また、chromebookを使っている1回のいじめアンケート、QU調査後のヘルプシグナルのチェック、個人面談も引き続き継続し、トラブルの未然防止につなげていきたい。	B	②折に触れ、道徳を学ぶ意義を伝えていくことで、道徳教育の効果がさらに高まっていく。 ②積極的に講師を招き、講話を聴くこともあってよいのではないかと考える。 ②新聞のコラム欄は、道徳の教材として活用できる。
		② 特別の教科道徳において、道徳的価値について考えを深める。	教務・研究（木村）	【努力指標】 生徒が、効果的な振り返りを通して、道徳的価値についての自身の考えの深まりを実感できるようにする。	【教職員アンケート】 ・ねらいとする価値にせまるために、多面的・多角的な見方ができるような授業展開の工夫に努めている。 A 90％以上 B 80％以上 C 70％以上 D 70％未満 【生徒アンケート】 ・道徳の授業では、友達との話し合いなどを通じて、テーマについて自分の考えを深めることができた。 A 90％以上 B 80％以上 C 70％以上 D 70％未満	【教84.2％ 生97.2％】 教職員アンケートでは、「ねらい達成のための授業展開の工夫」に努めている教師が84.2％と前期を若干下回った。道徳の授業改善に対する意識を高めていくために、組織的な取り組みを増やしていく必要がある。 一方生徒アンケートでは「テーマについて自分の考えを深めることができた」と解答する生徒が97.2％と前期を上回る結果となっている。教師の授業改善や組織的な取り組みを通して、生徒が狙いとする価値にさらに近づくことができるよう工夫を検討していきたい。	A	③能美市の歴史や現在について考えることも必要ではあるが、能美市の未来を考えたり見せたりする活動があっても良いのではないかと考える。例えば、能美市議会銀の話の聞くなど。
		③郷土を愛する心を育成する。	教務・研究（本川）	【満足度指標】 地域と連携したキャリア教育やふるさと教育を計画的・効果的に実践する。	【教職員アンケート】 ・総合的な学習の時間等を活用し、生徒のキャリア発達を促したり、郷土を愛する心を育成したりする。 A 90％以上 B 80％以上 C 70％以上 D 70％未満 【生徒アンケート】 ・「根上中が好きか？能美市が好きか？」の結果 A 90％以上 B 80％以上 C 70％以上 D 70％未満	【教88.0％ 生根89.0％ 生能78.2％】 教員アンケートと、生徒の根上についてのアンケートにおいては、9月とあまり変わらない結果となった。生徒の能美市についてのアンケートは約10％低い結果となった。「能美市が好きだ」というアンケートの記述として、「空気がきれい、自然が豊か」「住みやすい」などの回答が多かった。来年度に向けて、能美市が好きな理由から、能美市の良さを深めていくような探究活動の時間にしていくと良いと考えた。また、「根上中が好きだ」については、生徒指導との連携が必要な課題だと考える。	B	
4	（強い身体をもつ生徒）	①基礎体力を向上させる。	保健体育（泉）	【努力指標】 教科体育の充実や適正な部活動運営を通して、基礎体力の向上を図る。	【体力テスト】 ・2、3年生の体力テストにおいて、総合評価のA、Bが占める割合 A 60％以上 B 50％以上 C 40％以上 D 40％未満	【体力テスト 51.5％】 県平均との比較では、48項目中25項目は県平均を上回っていた。残りの23項目の向上が求められるが、特に握力においては全学年男女県平均を下回る結果となっている。筋力をいかに高めていくのが課題となっており、保健体育の授業の中で、向上に向けたトレーニングを実施していく。	B	①筋力だけにこだわらず怪我をしないからだづくりに向けたトレーニングを考えていただきたい。 ①体育の時間だけで体力を向上させることはとても難しいので、継続できるような簡単なトレーニングを考えさせると良い。
		②健康教育を充実させる。	保健環境（四間丁）	【満足度指標】 「睡眠」と「朝ごはん」を基盤として、歯科検診や内科検診の結果を含め、生徒が年間を通して生活改善をを意識できるようにする。	【生徒アンケート】 ・「毎日朝食を食べている」「睡眠時間の確保」ができている。 A 90％以上 B 80％以上 C 70％以上 D 70％未満 【保健調査】 ・歯科検診、内科検診後の受診状況 A 90％以上 B 80％以上 C 70％以上 D 70％未満	【7月：朝95.9％、睡85.7％】【12月：朝96.2％、睡77.7％】 体調不良を訴え保健室に入室する生徒は「朝食を食べていない」と答えることが多く、朝食と体調が関連づいていると推測できる。睡眠時間について、3学期に生徒会保健部で啓発動画を作成し、全校で睡眠の重要性を学ぶ機会を作るとともに、3年生に向けて保健だよりで改めて睡眠について触れていく。 【内科検診57.1％→59％、視力検査46.3％→53％】 1学期個人懇談時に受診のお知らせを直接保護者に渡すことができたが、受診率の微増に留まった。今後ほけんがより受診の啓発をする予定	B	②食事・睡眠及び歯の大切さなどは、たよりで伝えることも大切ではあると思うが、講師や有識者の講演を聞くことも有効であると考える。その際、保護者にも参加を呼びかけるとより効果が期待できると考える。
5	（コミュニティ・地域との連携の推進）	①学校運営協議会を充実させる。	教務（辻）	【満足度指標】 学校運営協議会を中心に、コミュニティスクール(CS)としての機能を推進し、家庭・地域との連携を強化する。	【保護者アンケート】 ・学校・保護者・地域がつながり合って、生徒の成長を支えていると感じる（コミュニティスクールとの連携等）。 A 90％以上 B 80％以上 C 70％以上 D 70％未満 【教職員アンケート】 ・学校運営協議会で話し合いを中心に、保護者や地域からの意見を、日々の教育に生かしている。 A 90％以上 B 80％以上 C 70％以上 D 70％未満	【保58.7％】【教84.0％】 1学期に比べて、教職員の肯定的な回答の割合が若干低くなっている。保護者や地域からいただいた意見やそれに対する学校としてのアクション等、職員全体でさらに共有を図りながら、進めていく必要がある。保護者アンケートでは、昨年度に比べると10％「わからない」と回答する割合が低くなっている。学校行事等において、受付業務や駐車場整理、また学期末大掃除の指導等でCSの方に協力していただく機会も増えていることがその要因と考えられる。今後も継続してそういった機会を設け、学校運営協議会を中心に家庭や地域との連携を強化させていきたい。	C	①「教職員の働き方改革」をさらに推進していくため、学校運営協議会の委員の増員が必要と考える。 ①受付業務など保護者の方の目につくような事を継続して、認知度を地道に高めていく。 ①今後も学校運営協議会の周知を図る取り組みを継続するとともに、町内会行事等に生徒や学校関係者が参加するなど、お互いに協力し合う仕組みづくりが必要である。
		②適切な情報公開と社会貢献を展開する。	教務（辻）	【成果指標】 ホームページ等での情報発信につとめ、学校教育活動に対する家庭・地域からの理解を深められるようにする。 【努力指標】 学校教育活動全体を通して、「はたらく子」を育成する。	【保護者アンケート】 ・生徒の学校での活動の様子を知るために、学校ホームページを定期的に閲覧している。 A 90％以上 B 80％以上 C 70％以上 D 70％未満 【生徒アンケート】 ・「そうじをしている」「あいさつができる」「係活動に取り組んでいる」の結果。 A 90％以上 B 80％以上 C 70％以上 D 70％未満	【保41.7％】【生：掃95.4％、係94.5％、係86.3％】 情報発信については、肯定的な回答の割合が若干高くなった。「校長コラム」を時間を空けずに日々更新し続けていることや、各種お便りに学校HPのQRコードを添付したこと等が、数値向上の一助となっていると考えられる。今後も継続し、学校教育活動に対する家庭・地域の理解をより深められるよう努めていきたい。「はたらく生徒」という視点では、どの項目においても肯定的な回答の割合が依然として高いが、挨拶については、少し数値が低くなっている。日々取り組んでいるあいさつ運動の取り組み方の工夫や、折に触れてあいさつの意義を再確認することなど、方法を検討していきたい。	B	②挨拶は何故する必要があるのか、何故した方が良いのかを説明したり、掲示しておく良い。 ②HPは、目を引くような記事等があったり、シンプルなものであると良い。 ②大掃除では、楽しそうな様子が印象的であった。伝統として継続していったほしい。